

# 公開講座



科学技術文明社会を

# 生 きる



平成27年  
11月28日(土)

「遺伝子をONにして  
可能性を伸ばす」

村上和雄  
(分子生物学者 筑波大学名誉教授)

第1回



平成28年  
2月13日(土)

「生態系と  
人間のつながり」

安田喜憲  
(環境科学者  
ふじのくに地球環境史ミュージアム館長)

第2回



平成28年  
4月9日(土)

「今、子どもたちは…  
夜回り先生、  
いのちの授業」

水谷 修  
(教育家)

第3回



平成28年  
6月18日(土)

「愛をはぐくむ」

渡辺和子  
(ノートルダム清心学園理事長)

第4回



平成28年  
9月24日(土)

「新たな  
看取り文化の  
創造を考える」

石飛幸三  
(医師)

第5回

時間

毎回13時00分より、30分のミニコンサートののち、13時30分～15時00分までが本講座の時間となります。

(受付 12時30分～)

会場

聖徳殿

くらしき作陽大学内

定員 300名 (各回)

受講料

各 2,000円 (各回)

第2回以降4回通し券 6,000円

主催:くらしき作陽大学

後援:岡山県、岡山県教育委員会、倉敷市、倉敷市教育委員会、財団法人倉敷市文化振興財団、総社市、総社市教育委員会、読売新聞岡山支局、毎日新聞岡山支局、朝日新聞岡山総局、産経新聞岡山支局、山陽新聞社、中国新聞備後本社、NHK岡山放送局、RSK山陽放送、RNC西日本放送、OHK岡山放送、KSB瀬戸内海放送、TSCテレビせとうち、倉敷ケーブルテレビ、玉島テレビ放送、エフエム岡山、FMくらしき

お申し込みは  
裏面を  
ご覧ください。

# 公開講座「生きる」の開講にあたって

くらしき作陽大学は平成28年に創立50周年の記念の年を迎えます。これもひとえに地域社会の皆さまの暖かいご支援の賜物と感謝しています。キャンパスを津山市から倉敷市に移転した時期に、新しい21世紀への期待をこめて、公開講座「百人百話」を実施しました。しかし、物質的には豊かになりましたが、精神的には貧しくなり、内外ともに悩み、不安、問題は多様化し深まっています。そのような現代社会で、いきいきと生きていくにはどうすればよいのでしょうか。

人は一人の例外もなく、貴い生命を賜り、かけがえのない人生を生きています。そして、これで良しといえる感謝と歓喜の人生を全うしたいと考えています。そのために“科学技術文明社会を生きる”をテーマに5人の講師のお話をお聞きいただき、諸々の問題を超越して、しなやかにかつ元気に生きる道を一人でも多くの方が発見していただければと願い、創立50周年記念事業の一つとして公開講座「生きる」を開講する次第です。

くらしき作陽大学 学長 松田英毅

## －未来に向かって、いきいきと、たくましく生きるために－

第1回

平成27年 11月28日(土)

遺伝子をONにして可能性を伸ばす

村上和雄 (分子生物学者 筑波大学名誉教授)

人間の身体は素晴らしい遺伝子の働きに支えられている。遺伝子のはたらきをONにすることにより、明るく、生きいきとした人生が開けることを話します。

奈良県生まれ。京都大学卒。  
筑波大学遺伝子実験センター長。  
筑波大学名誉教授。

第2回

平成28年 2月13日(土)

生態系と人間のつながり

安田 喜憲 (環境科学者)

持続型文明社会を維持するライフスタイルとは何か。稲作漁撈文明の宗教とは何かを考えます。

三重県生まれ、東北大学大学院修了。広島大学等を経て東北大学大学院環境科学研究所教授。現在、ふじのくに地球環境史ミュージアム館長。

第3回

平成28年 4月9日(土)

今、子どもたちは…夜回り先生、いのちの授業

水谷 修 (教育家)

今、日本の子どもたちは苦しんでいます。いじめ、不登校、ひきこもり、リストカットなどの自傷行為、心の病、自殺、非行、援助交際、薬物乱用…。その原因と、解決法をお話しいたします。

横浜生まれ、上智大学卒、  
高校教諭を経験した後、上智大学講師。

第4回

平成28年 6月18日(土)

愛をはぐくむ

渡辺和子 (ノートルダム清心学園理事長)

愛するということは、自分にとって価値あるものに、魅かれてゆくことなのです。マザーテレサは、人々が魅かれ難い人たち一人ひとりを大切になさいました。私たちがもしこしても、あやかりたいものです。

北海道生まれ。聖心女子大学卒。ナミュール・ノートルダム修道女会入会。ノートルダム清心女子大学学長。日本カトリック学校連合会理事長(1992～2001)を歴任。現在、ノートルダム清心学園理事長。

第5回

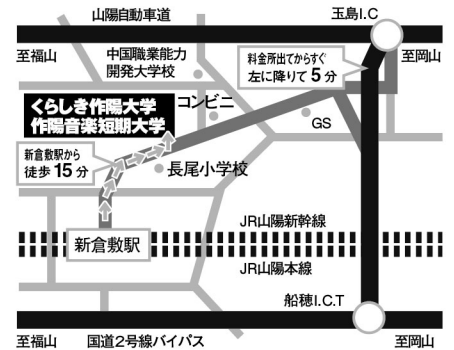
平成28年 9月24日(土)

新たな看取り文化の創造を考える

石飛 幸三 (医師)

我々は老衰という自然の摂理を無視して医療に過剰な期待をしているのではないのでしょうか。私の作った「平穏死」という言葉は、単なる延命治療をしなくても責任を問われるべきではないという主張なのです。

広島県生まれ。慶應義塾大学医学部卒。海外勤務を経て東京都済生会中央病院副院長。現在、特別養護老人ホーム「芦花ホーム」常勤医師。



すべてのお問い合わせは・・・

大学創立50周年記念 公開講座 事務局 山下・時弘 〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515

TEL/086-436-0274 FAX/086-523-0811

### 公開講座 参加申込み要項

フリガナ	性別		年齢		
氏名	姓	名	男	女	歳
住所	(〒 - ) 市区町名 番地				
電話	第2回以降 4回 通し券		要 不要		
参加希望 ○で囲む	2/13	4/9	6/18	9/24	

お申し込みは [FAX086-523-0811] もしくは [メールsakuyo.kikaku@ksu.ac.jp]